

郷土の本

南島ボートピープル
奄美近現代—出稼ぎ・移民考

原井一郎著



奄美群島（鹿児島県）は17世紀末に薩摩藩によって黒糖生産を強制され、「七公三民」ともいわれる厳しい取り立てと飢饉の発生で、豪農に身売りする「債務奴隷」のヤンチュ（家人）が人口の約3割に達したという。明治期には砂糖商人による搾取が進み、困窮した島民は当時急成長していた阪神工業地帯やブラジル、満州（中国東北部）など国内外に活路を見いだすが…。著者はジャーナリストで元地元紙記者。出稼ぎ先で偏見や差別にさらされながら生き抜いた島民の姿を、新天地を目指し船で祖国を脱出した「ボートピープル」に重ねる。2018年に大阪で孤独死した奄美出身者の人生から始まり、外国人労働者差別や貧困問題などと絡めてつづった「流民史」は現代日本の写し絵でもある。（海風社・2640円）